

平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査



# かけがわの子どもたち



掛川市教育委員会

掛川市では、『教育大綱かけがわ』の中で、子どもたちの目指す姿の一つとして「豊かな心や健やかな体に高めていくひと」とし、健康教育と体力・たくましさの育成に重点を置いています。

本年度実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、掛川市の集計結果をお知らせします。全国平均・県平均を 100 として、指標値により示しました。



## 実技に関する調査結果

### 【小学校5年男子】

※持久走と 50m 走については、タイムの速い方が良い結果であるため、数値を逆にして計算しています。

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	95	101	98	102	105	100	100	101	100
県比較	98	103	100	103	103	100	99	107	101

### 【小学校5年女子】

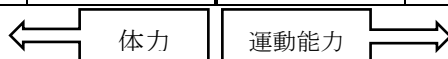
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	96	100	100	103	103	99	100	110	101
県比較	97	101	102	103	97	99	99	107	100

### 【中学校2年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	98	99	97	100	102	101	100	104	99
県比較	98	97	96	99	101	100	98	102	97

### 【中学校2年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	100	100	97	98	101	101	100	106	99
県比較	100	98	95	97	99	100	97	101	96



## 調査結果全体から見えてきたこと

- 掛川市では、県で課題とされているボール投げの結果において、小5、中2の男女すべて全国や県の平均を上回った（全国の平均を上回ったのは、4年連続）。
- 小学校のシャトルラン、中学校の持久走において、小5、中2の男女すべて全国の平均を上回っており、掛川市内の子どもたちの持久力は、全体的に見て高い。
- 児童生徒に対する質問紙調査では、「運動やスポーツは大切なもの・やや大切なもの」と答えた児童生徒の割合が、小5、中2の男女すべて全国や県を上回っており、体を動かすことは大切だと考えている子どもが多い。
- 「体育（保健体育）の授業が楽しい・やや楽しい」と答えた児童・生徒の割合が、小5、中2の男女すべて全国を上回った。特に小5の男女、中2男子は全体の90%を超えていた。掛川市では、子どもたちにとって体育（保健体育）の授業が充実したものになっている（3年連続）。
- 一週間の総運動時間（月～日）が420分を超えている児童生徒の割合は、小5、中2の男女すべて全国や県を上回っている。また、運動しないと答えた児童生徒の割合が、全国や県よりも低く、掛川市の子どもたちは、日常的に運動する習慣があると考えられる。
- △「握力」において、小5と中2の男女ともに全国・県の平均値に届かなかった。
- △「体力合計点」が、中2の男女ともに全国・県の平均値に届かなかった。

## 体力の高い子 かけがわの法則

「実技に関する調査」と「質問紙調査」の相関関係を分析すると、次のような子どもの体力合計点が高い傾向にあります。

- ①運動が好き・大切である（小学校5年男女、中学校2年男女）。
- ②体力・運動能力向上の目標を立てている。（小学校5年男女、中学校2年男女）。
- ③体育（保健体育）の授業で、話合う活動を行っている（小学校5年男女、中学校2年男女）。
- ④体育の授業で、振り返る活動を行っている（小学校5年男女）。
- ⑤家の人からの積極的な運動の勧めがある（中学校2年男女）。
- ⑥失敗を恐れずに挑戦する（小学校5年男女、中学校2年男女）。
- ⑦自分には、よいところがある（小学校5年男女、中学校2年男女）。



## 今後に向けて

掛川市の子どもたちは、運動好きな子どもが多く、運動時間も確保され、全国学力・学習状況調査の結果と同じく、自己肯定感も高い結果となりました。今後も、運動能力の向上に努めるとともに、筋力や柔軟性にも対応できるように、まずは、幼稚園ですすめているアクティブチャイルドプログラムを継続して小学校低学年ですすめ、家庭も巻き込んで取り組んでいきます。中学校では補強運動（筋力をつける運動）を継続的に行い、発達段階に応じた指導の充実にも努めていきます。今後も、地域の特色や子どもたちのニーズに合わせた効果的な取組を推進し、子どもたちが自主的に「豊かな心や健やかな体に高めていくひと」を目指せるよう、健康教育と体力・たくましさの育成に力を注いでいきます。